

2005年2月22日

大学生・高校生の世界認識の調査報告

日本地理学会からの提言

イラクがわからない大学生が44%もいる！

世界認識を高めるための3つの提言

日本地理学会 地理教育専門委員会

【日本地理学会からの3つの提言】

1. 小・中・高校を通じて地図（地図帳・地球儀）の活用を推進すること

世界全体を正しく理解するためには、情報の「整理箱」として頭の中に世界地図が描けることが重要である。頭の中の世界地図に様々な情報が整理されることによって、リアルな世界像が出来上がっていく。

地図帳や地球儀の見方や活用方法の習得も大切だが、小学校から高校までを通じて地図帳や地球儀を繰り返し学習し、「地図を読む習慣」を身に付けることが重要である。

2. 高校での地理学習を拡充すること

現在、高校生の約半数は地理を学ばずに高校を卒業している。このため、高校生と大学生の世界認識が十分とは言えない。

グローバル化する現代社会を生き抜く力を身につけ、国際社会において日本社会が確固たる地位を築いていくには、国際感覚を身につけることが必要である。そのベースとなる最低限の地理的教養は地理教育によって醸成される。

高等学校での地理の学習を充実させることは、現代世界を正しく理解し、国際社会で生きていくために不可欠である。

3. 基礎的な学習を充実させること

身近な地域や国土、世界を正しく認識するための基礎的な知識の習得も重視しなくてはならない。「どこに位置しているのか？」「どんな特徴があるのか？」といった、地域認識の基礎となる位置や場所の持つ意味をきちんと学習

することが大切である。国土や世界の諸地域を正しく認識するということは、このような基礎の上に成り立つものである。

現実世界の多様な現象を理解し、課題を発見し、問題を解決していくためには技能に裏打ちされた地理的な見方や考え方を身につけることと並行して、世界や日本に関する基礎的な知識を継続的に学習し、確実に定着させることが何よりも大切である。

【本調査の背景と目的】

若者の学力不足が最近しばしば指摘される。文科省の学力調査では高校生の学力は「おおむね良好」とされているが、現場の教師からは大学生や高校生の基礎的な知識の著しい低下傾向が指摘されている。

日本地理学会（会員約3000人）は、グローバル化する時代に対応した地理教育の必要性を重視し、学会内に地理教育専門委員会を設置し地理教育振興にかかわる調査・研究活動を行っている。

今回われわれが実施した調査の目的は、大学生・高校生による国の位置の認知度の正確さを知り、その実態を明らかにすることにある。

調査では、近年何かと話題となり、マスコミ等にもよく取り上げられた10カ国（アメリカ、イラク、インド、ウクライナ、ギリシャ、ケニア、北朝鮮、フランス、ブラジル、ベトナム）を対象とした。

【調査の実施概要】

調査は地理教育専門委員（16名）の所属する学校を中心に2004年12月から2005年2月にかけて全国の25の大学（3773人）高校については9校（1027人）に調査票を配布し調査した。

調査は、前述した10カ国の位置を世界地図上の30の国に記した番号から選択するもので、5分程度で回答できるものである。大学生の調査票集計に際しては、高校時代の「地理」履修の有無に基づきクロス集計を行った。

大学生における調査は、おもに地理学を専門とする教員の講義を利用して行われており、多少なりとも地理的関心の高い学生による結果と判断できる。高校については、進学希望者の比較的多い学校が大半を占めている。

【アンケート調査の結果】

1. 「地理」履修者は、国位置の認知度が高い。

大学生の正答率を見ると、高校時代に「地理」を履修した学生のほうが、「地理」未履修の学生よりも正答率が高い。90%以上の位置認知度を有する国に両者の差はそれほどないが、80%以下の位置認知度の国になるほど「地理」履修の有無が大きな差となってあらわれる。これらに対し、統計的な検定を行った結果、イラク、ウクライナ、ギリシャ、ケニア、ベトナムについては有意な差が認められた。高校で地理を学んでこなかった学生は、国名や位置を正確に把握することができないことが明らかになった。

2. 馴染みの薄い国の位置はかなり不正確。

アメリカ、インド、ブラジルなど大国で有名な国について、大学生・高校生共に間違いは少ない。

しかし、最近マスコミ等で話題となったが、遠方で馴染みの薄い国の場合、認知度は低くなり、「地理」履修者との差も大きくなる。

ウクライナについては、大学生で54.8%、高校生で33.0%の正答率に過ぎない。昨年、オリンピックが開かれたギリシャについては、大学生で76.5%、高校生で59.4%である。

さらに、湾岸戦争以来話題となり、現在自衛隊が派遣されているイラクについて、その位置のわかる大学生は56.5%、高校生では52.7%である。すなわち、約43%の大学生と約47%の高校生はその位置を正しく理解していないのである。

時事的な国名の場合、国名は知っていても、その位置については正しく認識していない様子が浮き彫りとなった。

3. 中学までに世界の国々の1/3は覚えていたのに…。

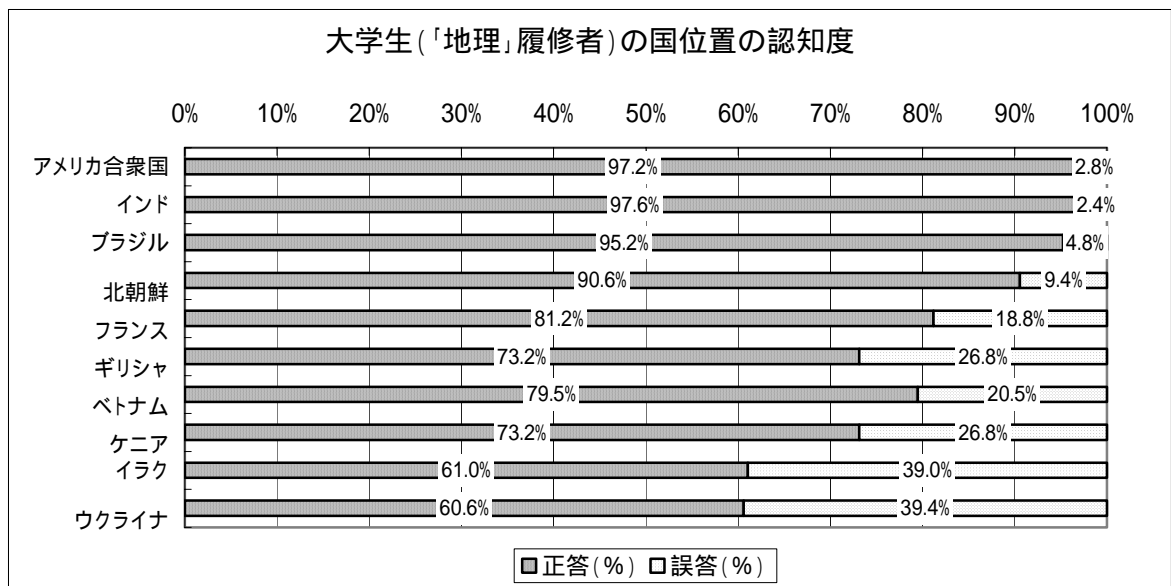
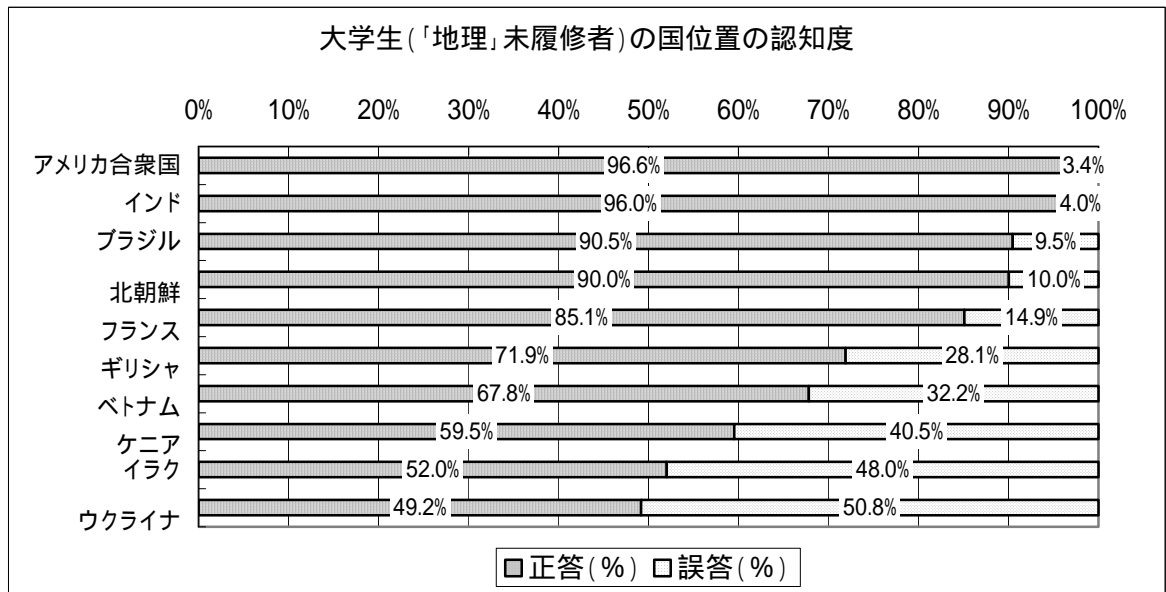
中学校社会科の学習指導要領では、世界のおもな国名と位置を地図を用いて身に付けさせることになっている。中学校の現場では、世界の国々の1/2から1/3を覚える生徒が多い。ところが高校で「地理」を選択しない生徒が増えた結果、学年や校種が上がるごとに、せっかくの基本的な知識が忘れ去られていく現実が今回の調査でより鮮明となった。高校での「地理」学習を拡充する必要がある。

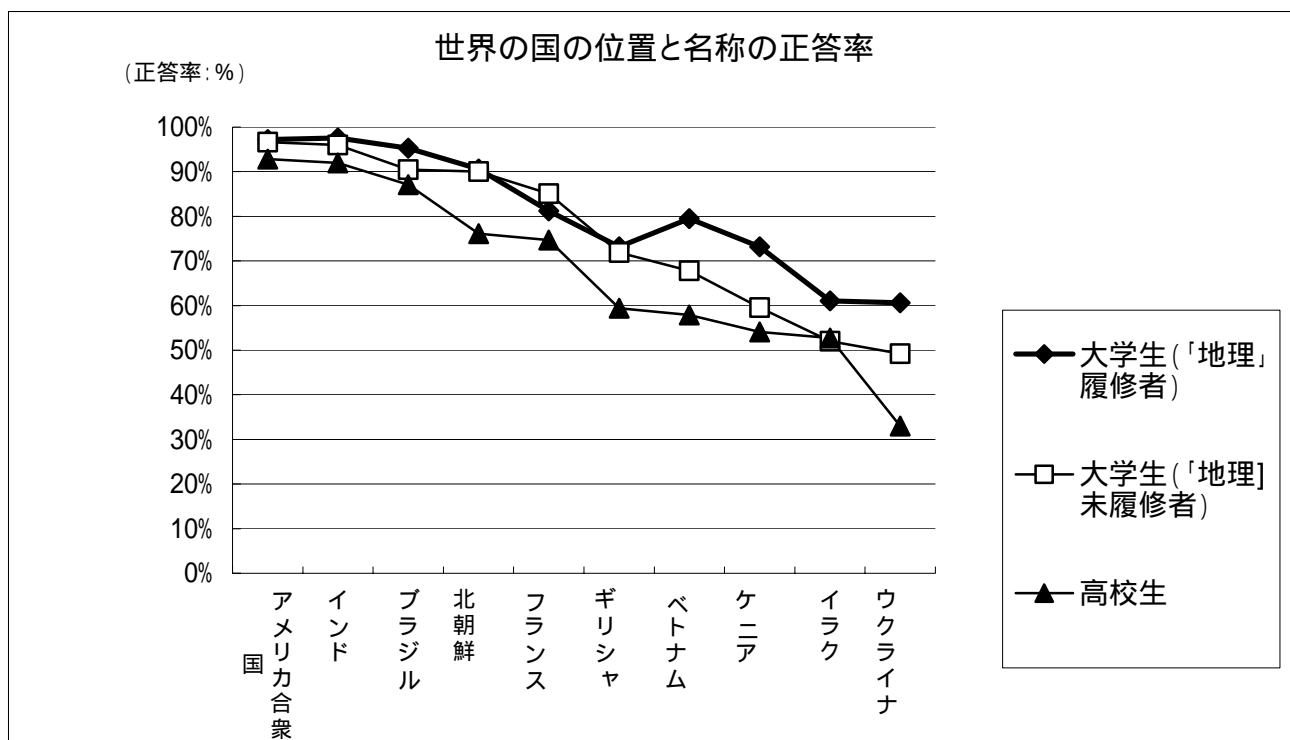
大学生・高校生の世界認識調査

調査対象：大学生：3773人（25大学） 高校生：1027人（9高校）

実施大学：沖縄国際・京都・京都教育・慶應・駒澤・滋賀・信州・専修
高崎経済・中央・筑波・帝京・東京・東京学芸・獨協・都立
日本・日本女子・弘前・福岡教育・法政・北海道教育大旭川
立正・立命館・早稲田

	大学生 「地理」履修者 回答者数 1,866		大学生 「地理」未履修者 回答者数 1,907		合計 回答者数 3,773		履修者と 未履修者 の差 (%)	高校生 回答者数 1,027	
	正答率 (%)	正答数	正答率 (%)	正答数	正答率 (%)	正答数		正答率 (%)	正答数
アメリカ合衆国	97.2	1,814	96.6	1,843	96.9	3,657	0.6	92.8	877
インド	97.6	1,821	96.0	1,830	96.8	3,651	1.6	92.0	865
ブラジル	95.2	1,777	90.5	1,725	92.8	3,502	4.8	87.1	818
北朝鮮	90.6	1,690	90.0	1,717	90.3	3,407	0.5	76.1	709
フランス	90.6	1,690	85.1	1,623	87.8	3,313	5.5	74.7	726
ギリシャ	81.2	1,515	71.9	1,371	76.5	2,886	9.3	59.4	557
ベトナム	79.5	1,483	67.8	1,293	73.6	2,776	11.7	57.9	535
ケニア	73.2	1,365	59.5	1,135	66.3	2,500	13.6	54.1	487
イラク	61.0	1,139	52.0	992	56.5	2,131	9.0	52.7	509
ウクライナ	60.6	1,131	49.2	938	54.8	2,069	11.4	33.0	321





【資料】

地理の履修率について

	教科書採択数	世界史を基準とした履修率(%)
世界史	1,491,946冊	100
日本史	1,022,130冊	68.5
地理	798,238冊	53.5
地図帳	887,339冊	59.5
現代社会	1,026,111冊	68.8
倫理	362,378冊	24.3
政治経済	566,177冊	37.9

* 「平成16年度 高校教科書需要数」日教販調べ 履修率は教科書の購入生徒がその教科を履修したと仮定した場合。厳密には誤差があります。

【資料】

諸外国における地理教育の位置づけ

イギリス：

中学校では、社会科ではなく独立科目の地理として週 1 時間 15 分、年間で 45 時間の必修。高校レベルでは、歴史とともに必修から外れ「市民科」に統合または、選択科目となる。

フランス：

高校では歴史地理として基本的に週 2 時間以上の必修科目となっている。社会系の科目では歴史地理が特に重視され、ヨーロッパの歴史と地理を詳細に学習する。

ドイツ（バイエルン州）：

小・中・高と 10 年間一貫のカリキュラムのバイエルン州では地理は「歴史・社会・地理」として 10 年間を通して、週 2 時間の必修に置かれている。

シンガポール：

日本の中学 3 年と高校 1 年に相当する学年で地理と歴史が総合された「人文総合」が必修とされている。さらにその他の選択科目として「地理」が置かれている。

中国：

必修の地理が週 3 時間、年間で 105 時間あり、さらに選択科目として 4 時間の履修が可能となっている。

韓国：

韓国では必修科目を少なくする教育課程が組まれているが、高校 1 年までは社会科週 10 時間が必修とされ、高校 2 年の選択科目の「人間社会と環境」に歴史・地理・公民の内容が融合されているが中心は地理にある。さらに選択科目には韓国地理週 8 時間、世界地理週 8 時間、経済地理週 6 時間、社会・文化集 8 時間など豊富な地理の内容が用意されている。

台湾：

高校 1 年で前期週 2 時間、後期週 3 時間の必修。高校 2 年で歴史、地理、現

代社会の中から 2 科目の選択とされ、日本の大学レベルの内容となっている。

まとめ：

日本の高校の地歴科では、世界史のみが必修とされ、日本史と地理は選択科目とされている。そのため、日本の高校生の約半数は高校で地理を学んでいない。

先進国、アジア諸国の 7 ヶ国の事例を見ても、歴史のみを地理に優先させて選択させている国はない。地理と歴史は車の両輪として不可分の科目であると考えられている。それは、生徒の人間形成の上で歴史認識と地理認識は欠かせないものであり、どちらかを軽んじても、重んじてもバランスが取れないことが、各国の教育では熟知されている。

中等教育の後半になっても、特にアジア諸国では地理が重視されている。

世界に関する知識や認識を身につけた地理を十分に学んだアジア諸国の人々と中学レベルの地理の知識しかもたない日本人の間には大きな乖離ができ、今後の世界のあり方を考える上でも世界の知識が豊富なアジアの人々には追いつけなくなる。

すなわち、日本とアジアの交流でも、日本人々は国際理解に関する認識を深化させられないために国際社会から取り残され、世界の情勢が分析できないことから経済競争からも脱落していくことは目に見えている。

そうならないためには、高校教育では地理は、歴史と並んで重要な科目と位置づけ、小学校から中学校、そして高校までの継続した学習をすべきであろう。

各国の高校レベルでの地理と歴史の必修・選択状況（筆者作成）

	イギリス	フランス	ドイツ	シンガポール	中国	韓国	台湾	日本
地理必修								×
歴史必修								

国立教育政策研究所：2004

「社会科系教科カリキュラムの改善に関する研究 - 諸外国の動向（2） - 」

173 p.より

【資料】

日本地理学会

日本地理学会は1925(大正14)年に創立された日本の地理学界を代表する学会です。現在の会員は、大学・研究所・企業の研究者・技術者や小・中・高校の教員を中心に、その数は約3,000人に達しています。会員の研究分野は地形・気候・水文・植生・環境などの自然地理、経済・社会・政治・人口・都市などの人文地理のほか、世界各地の自然・歴史・産業・文化などの総合的な地域研究、地図・リモートセンシング・GIS(地理情報システム)など、広い分野にわたっています。

日本地理学会は、近年のグローバルな環境危機や地震・火山噴火・地滑り・豪雨などの自然災害に対して、大地とそこに生活する人類を総合的に研究調査し、具体的な対策の立案に大きく貢献しています。また、国際化と国際理解の推進、国土の開発と保全、社会の持続的発展の可能性の追求、空間的情報処理技術の開発など多くの今日的な課題に取り組んでいます。さらに、これらの学術的成果を次の世代に伝えるために、地理の教育実践・普及についても活発な活動を行っています。

日本地理学会の活動

地理学に関する研究・調査およびその奨励

機関誌その他図書の発行

機関誌「地理学評論 (Geographical Review of Japan)」

(年14号刊行,うち英文号2回)

年2回(春・秋)の学術大会,研究会,講演会,現地見学会などの開催

国内および海外の学術諸団体その他の機関との連絡